

2018年11月6日

各 位

上場会社名 加 賀 電 子 株 式 会 社
コード番号 8 1 5 4 東 証 第 一 部
本社所在地 東京都千代田区神田松永町20番地
代表者の 代表取締役社長 門 良 一
役職氏名
問 合 せ 先 常務取締役管理本部長 川 村 英 治
T E L 0 3 - 5 6 5 7 - 0 1 1 1

次期中期経営計画の概要に関するお知らせ

当社は、2018年11月6日開催の取締役会において、2020年3月期を始期とする次期経営計画の方向性を示す「中期経営計画 2021（2019-2021）」について決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

当社は、2015年11月に、「中期経営計画 2018（2015-2018）」を策定し、「利益重視の経営」を確立することを重点経営方針として掲げ、企業として持続的成長を目指してまいりました。

その結果、利益の源泉となる売上高総利益率は14%近くまで向上し、2018年3月期には13期ぶりに経常最高益を更新しました。また、海外を中心としたEMSビジネス^(注1)の拡大や車載・通信など成長分野をターゲットとした商社ビジネスの拡大といった自律的成長に加え、2018年9月10日公表のとおり、富士通エレクトロニクス株式会社（以下、富士通エレクトロニクス）の株式取得による子会社化を決定するなど、更なる業界再編も見据えた非連続な事業拡大にも果敢に挑戦しました。

最終年度となる2019年3月期（2018年度）の業績見通しは本日（2018年11月6日）公表のとおり、本計画が示す経営目標^(注2)のうち、売上高（2,900億円）およびROE（8.0%以上）については達成できる目途をつけました。

当社は2018年9月に創立50周年を迎えましたが、次の50年、更にはその先を見据えた“未来の加賀電子グループ”の創造に向けた新たな出発点とすべく、2020年3月期から2022年3月期までの3カ年計画として「中期経営計画 2021（2019 - 2021）」を策定いたしました。その概要は以下のとおりです。

1. 基本方針

・収益基盤の強化

常に時流を先読みする当社グループの創業来のDNAを活かし、これから高い成長性・収益性が見込まれる市場に注力し、当社グループの収益基盤の強化を図ります。

- ①成長分野への取組み強化：「車載」「通信」「環境」「産業機器」「医療・ヘルスケア」に注力
- ②EMSビジネス、海外ビジネスの強化・拡大

・経営基盤の安定化

富士通エレクトロニクスのグループ会社化後の当社グループの効率性・財務健全性の早期改善に向けて、経営基盤の強化を図ります。

- ①グループ横断的なコスト削減施策の継続
- ②組織体制整備によるグループ経営の効率化推進
- ③コーポレートガバナンスの強化、人財の育成

・新規事業の創出

外的環境変化への耐性強化のため、自社リソースおよびM&Aを積極的に活用、新規事業の創出を図ります。

- ①「社会課題（保育、福祉、介護、等）ビジネス」「素材ビジネス」の取り組み
- ②ベンチャー投資によるオープンイノベーションの推進
- ③M&Aの積極的な活用

2. 経営目標

当計画の最終年度となる2022年3月期（2021年度）に目指す経営目標は以下のとおりです。

売上高	営業利益	ROE
5,000億円	130億円	8.0%以上

注：為替レート的前提：US\$1.00=110円

3. 「中期経営計画2021（2019-2021）」の位置付け

当社は、「利益重視の経営」の確立・定着を通して、“我が国業界No. 1”の企業グループを形成し、更には“世界に通用する企業”を目指すことを中長期の経営ビジョンとしています。

このビジョン実現に向けて、「中期経営計画2021（2019-2021）」では富士通エレクトロニクスのグループ会社化を通じて規模の拡大を図り、先ずは5,000億円級の売上高を伴った“我が国業界No. 1”企業グループとしての事業基盤を固めます。

そしてそれを足場として、中長期の時間軸では、EMSビジネスの一層の拡充と海外ビジネスの強化・拡大とともに更なるM&A・業界再編にも挑戦して規模拡大を図ることで、売上高兆円級の海外競合企業と伍して戦い、グローバル競争にも勝ち残れる“世界に通用する企業”の実現を目指します。

4. 株主還元の考え方

当社は、株主に対する利益の還元を経営上重要な施策の一つとして位置づけ、長期視点に立った財務体質と経営基盤の強化に努めるとともに、連結業績に鑑みながら株主各位に対する安定かつ継続的な配当の維持を基本方針としております。

この方針に基づき、「中期経営計画2021（2019-2022）」におきましては、「連結配当性向25～35%」を確保しつつ安定的な配当を実施していくことを目標に掲げております。また、当社グループの将来成長に資する事業投資や設備投資、M&A等にも積極的に活用してまいります。なお、自己株式の取得につきましては、資本効率や株価等を勘案して適切に判断してまいります。

(注1) EMSビジネス：電子機器の製造受託サービスのこと。当社は独立系エレクトロニクス商社の強みを活かして、電装基板の実装を得意としております。

(注2) 現「中期経営計画2018（2015-2018）」経営目標

売上高	経常利益	ROE
2,900億円	100億円	8.0%以上

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上

中期経営計画 2021 (2019 - 2021)

アウトライン

2018年11月6日
加賀電子株式会社

加賀電子グループの中長期ビジョン

「利益重視の経営」の確立・定着を通して



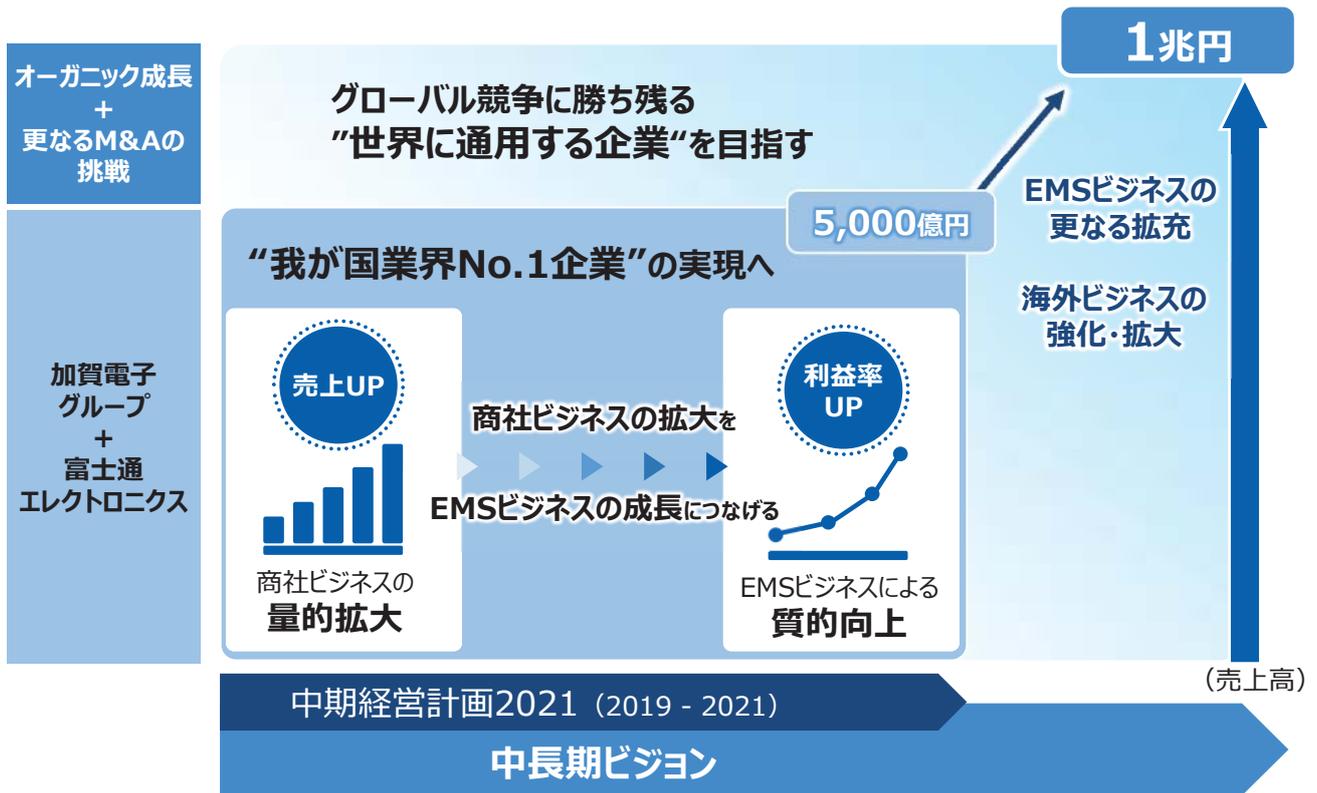
“我が国業界No.1” の企業グループを形成し



更には、“世界に通用する企業” を目指す。

重点課題	
<p>1 収益基盤の強化</p>	<p>時流を先読みする当社グループのDNAを活かし、高い成長性及び収益性が見込める市場に注力、収益基盤の強化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成長分野への取組み強化：「車載」「通信」「環境」「産業機器」「医療・ヘルスケア」 ・EMSビジネス、海外ビジネスの強化・拡大
<p>2 経営基盤の安定化</p>	<p>富士通エレクトロニクスのグループ会社化後の効率性・財務健全性の早期改善に向けて経営基盤の安定化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ横断的なコスト削減施策の継続 ・組織体制整備によるグループ経営の効率化推進 ・コーポレートガバナンスの強化、次代を担う人財の育成
<p>3 新規事業の創出</p>	<p>外的環境変化への耐性強化のため、自社リソース及びM&Aを積極的に活用、新規事業の創出を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会課題（保育、福祉、介護、等）ビジネス、「素材ビジネス」への取り組み ・ベンチャー投資によるオープンイノベーションの推進 ・M&Aの積極的な活用

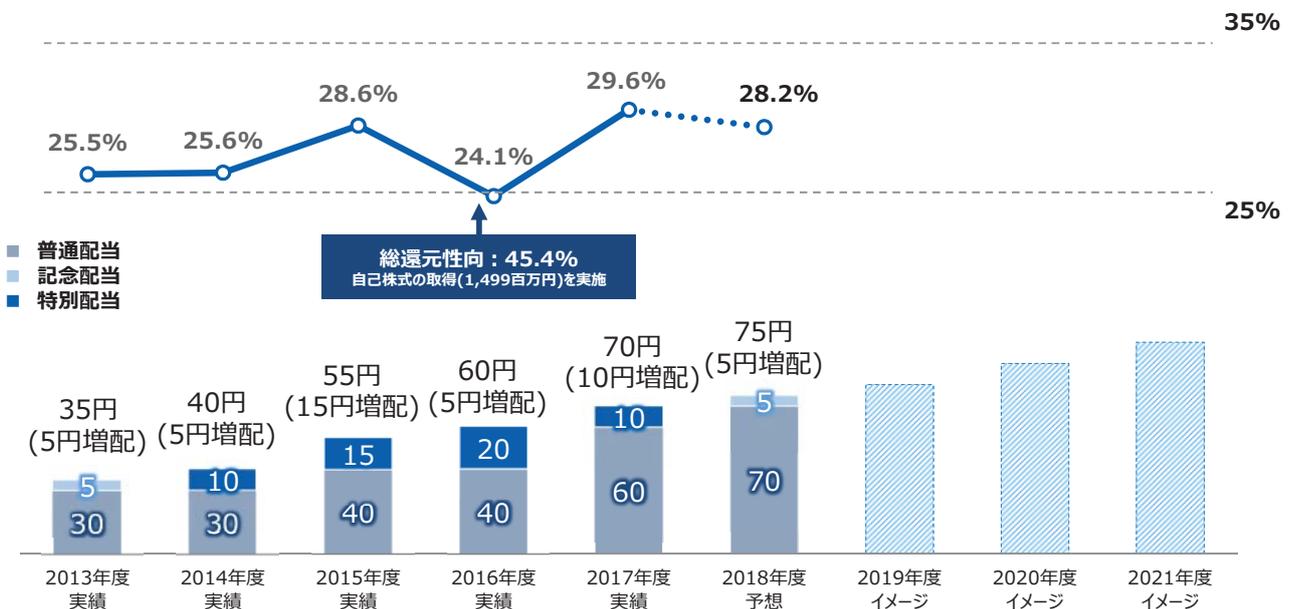
	2018年度 通期業績見通し	2021年度 経営目標	2018年度比 成長率
売上高	2,900億円	5,000億円	72%up
営業利益	77億円	130億円	69%up
ROE	9.9%	8.0%以上	—
為替レート	・ 計画の前提： US\$1.00 = ¥ 110		



株主還元の考え方

利益配分に関する基本方針

- 連結配当性向25～35%を確保しつつ、安定的な配当を実施する。
- 将来成長に資する事業投資・設備投資、M&A等に活用する。
- 自己株式の取得は、資本効率・株価等を勘案し、適切に判断する。



『すべてはお客様のために』



問合せ先：IR・広報室
〒101-8629 東京都千代田区神田松永町20番地
TEL:03-5657-0106
FAX:03-3254-7133
E-mail : webmaster@taxan.co.jp
<https://www.taxan.co.jp>

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を四捨五入

比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入